



「いわての復興教育」推進校 実践事例集

平成二十五年三月

岩手県教育委員会

「いわての復興教育」推進校

実践事例集




























平成25年3月
岩手県教育委員会

【はじめに】

東西122km、南北189km。この広大な県土を有する本県を大きな悲しみが襲ったあの日から、2年が経過しました。

県教育委員会では、東日本大震災津波を「つらい体験」だけにとどめるのではなく、その体験で得た思いや気づきを「子どもたちの学び」として構築していくことねらいとして、「いわての復興教育」の推進に取り組んでまいりました。

平成24年度は、県内すべての公立学校での取組をお願いし、中でも小中学校においては、全市町村に合わせて46校の「復興教育推進校」を指定し、特色ある取組の推進と積極的な情報発信を支援してまいりました。

おかげさまで、推進校及び県立学校からたくさんの特色ある取組をお寄せいただきました。紙面の関係上、すべての実践は紹介することができませんでしたが、掲載できなかった実践・資料等につきましては、県教育委員会のホームページ等で紹介いたします。

本冊子で紹介した50校64実践に共通していることは、「子どもたちの心身の状態」、「学校や地域の実情」を十分に考慮した上で、各学校の創意工夫のもと、「未来に向かっての教育」を構築しているということです。

11月のある日、沿岸部と内陸部の中学校の学校間交流で、沿岸部の中学校の代表生徒が、次のようなあいさつをしました。

「支援する側、される側という関係ではなく、これからは未来を創っていく仲間になりましょう」

今回紹介した実践にある学校間交流での言葉、被災地見学後の感想、地域とのかかわりで学んだこと等、子どもたちの言葉には、人としてもつべき普遍的価値の獲得を実感するものがたくさんありました。そして、その言葉を引き出した背景に、各学校の組織的・計画的な「教育という営み」があったことは、自明の事実です。

ジャン＝ジャック・ルソーは、「エミール」の中で、次のように述べています。

「動物は調教によって、植物は栽培によって、そして人間は教育によってつくられる」

「いわての復興教育」でめざしているもの、それは「復興・発展を支えるひとづくり」です。東西に122km、南北に189kmという広大な県土が一枚岩になることが難しくないことは、各学校における震災後の支援・連携の取組、そして岩手の子どもたち・先生方の心の距離の短さが証明してくれました。

県内すべての学校が共通の願いのもと、「教育という営み」の中で「いわての復興・発展を支える人材」を育成していきたい……。それには、本冊子で紹介した各学校の「いわての復興教育」の取組が、そこまでの道のりを示してくれる極めて正確な羅針盤となってくれることと確信しています。

平成25年3月 学校教育室復興教育担当

目次

【はじめに】

盛岡市立向中野小学校	01
八幡平市立大更小学校	03
雫石町立橋場小学校	05
滝沢村立一本木小学校	07
矢巾町立徳田小学校	09
花巻市立宮野目小学校	13
遠野市立小友小学校	17
北上市立二子小学校	21
西和賀町立湯田小学校	27
一関市立室根西小学校	29
平泉町立平泉小学校	33
大船渡市立越喜来小学校	37
陸前高田市立米崎小学校	39
釜石市立小佐野小学校	43
大槌町立吉里吉里小学校	45
宮古市立宮古小学校	47
山田町立山田北小学校	51
岩泉町立小本小学校	53
田野畑村立田野畑小学校	55
久慈市立久喜小学校	57
洋野町立宿戸小学校	61
普代村立普代小学校	63
野田村立野田小学校	67
二戸市立福岡小学校	71
九戸村立長興寺小学校	73
一戸町立一戸小学校	75

【写真：普代小・中学校植樹（平成24年8月7日）】

葛巻町立江刈中学校	77
岩手町立沼宮内中学校	79
紫波町立紫波第一中学校	81
奥州市立東水沢中学校	85
金ヶ崎町立金ヶ崎中学校	87
大船渡市立末崎中学校	89
陸前高田市立小友中学校	91
住田町立有住中学校	93
釜石市立甲子中学校	97
大槌町立吉里吉里中学校	101
宮古市立津軽石中学校	103
山田町立山田中学校	105
岩泉町立小本中学校	107
田野畑村立田野畑中学校	113
久慈市立久慈中学校	115
久慈市立長内中学校	117
洋野町立宿戸中学校	119
野田村立野田中学校	125
二戸市立御返地中学校	127
軽米町立軽米中学校	129
岩手県立杜陵高等学校定時制	133
岩手県立花巻南高等学校	137
岩手県立花北青雲高等学校	141
岩手県立盛岡視覚支援学校	145



【写真：吉里吉里中学校郷土芸能発表会（平成24年10月17日）】